

広報ますだへの記事掲載について

1 これまでの経過

これまで「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、3つの部会（「未来の担い手」、「産業の担い手」、「地域の担い手」）において、縦割りを排し、企業や市民と連携して人材育成の仕組みづくりや世代を超えた対話や交流の取り組みを中間支援組織との協働の取り組みにより「ひとづくり」を推進してきました。

令和元年9月号の広報ますだの記事では、「ひとが育つまち益田」及び「益田のひと」に関する記事を掲載し、広く市民に周知を図ったところですが、ひとづくり推進本部会議において、「せっかくいい取組をしているのに市民に伝わっていない。情報発信をするように」との指示を受けています。

このことから、各部会におけるこれまでの取組内容やその取組（協働）に対して職員がどのような想いや目標を持って取り組んでいるかを紹介する記事を広報に掲載することとし、「ひとづくり」の推進に係る情報発信を行います。

なお、併せて「ますだのひと」HPへ誘引する記事についても掲載します。

2 広報に掲載する記事の内容について

(1) 第1回（広報11月号）・・・政策企画課作成（1ページ）・・・別紙参照

第6次益田市総合振興計画における「ひとづくり」の取組について（概要のみ説明）

(2) 第2～7回（広報12月号～5月号）・・・部会ごとに作成（1/2ページ）

※各部会職員（若手）による取組内容の紹介、「協働」への想いや目標について

※全6回の連載（3部会×1記事×2回）の予定

3 第2～7回の記事内容について（要点）

(1) ひとづくりに関するどのような取組を担当しているか。（部会ごとの取組内容の紹介）

(2) どのような想いを持って仕事に取り組んでいますか。（「協働」に対する想い）

(3) これからどのような取組を行っていきたいですか。（目標）

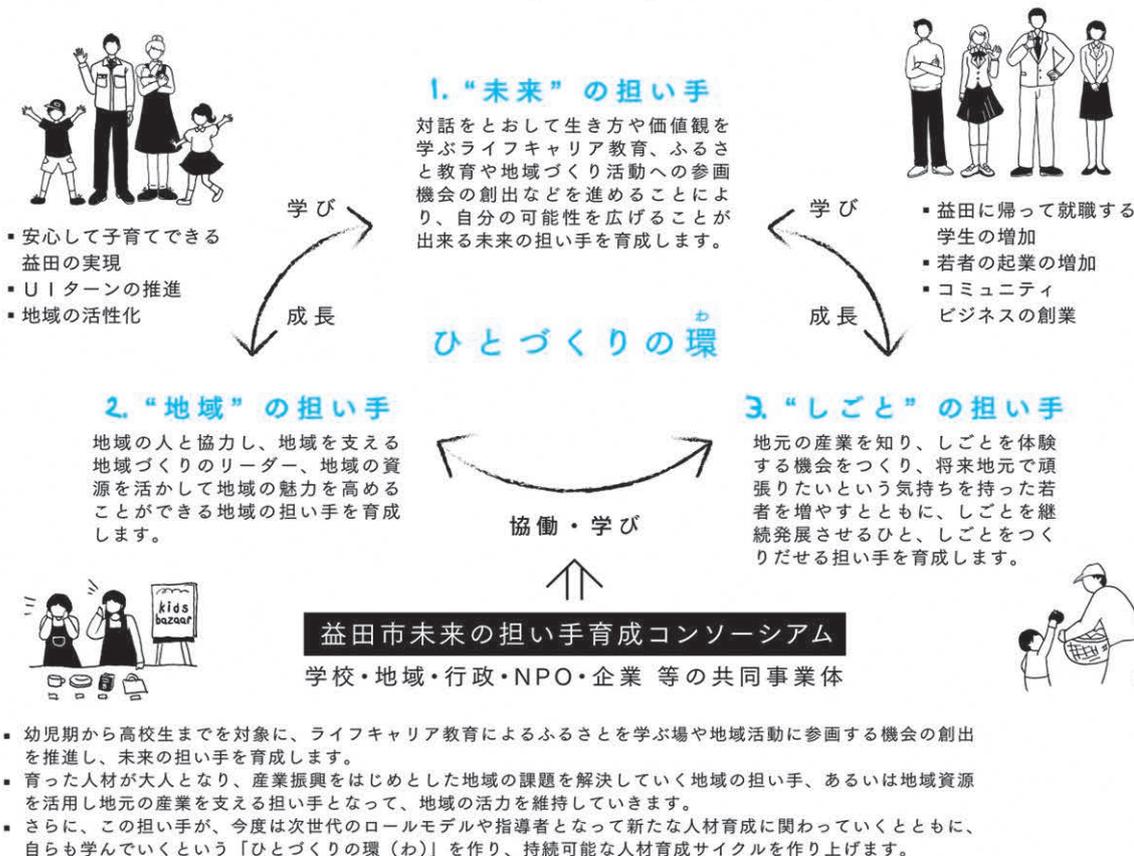
「ひとが育つまち益田」の実現に向けて

今年3月に策定した「第6次益田市総合振興計画」では「横断目標」として「社会変化に対応できる持続可能なまち」を掲げ、「次代を担う人材の育成・確保の推進」を基本施策とし、「ひとづくり」が特に重要な要素であることを意識した取組を推進しています。



「ひとが育つまち益田」を目指します

益田市の人口減少の大きな原因のひとつに、若者の就職や進学による人口流出があげられます。若者がUターンし、定着したくなるような魅力的な地域づくり、子育て環境の整備、働く場の確保とともに、益田で働きたい、起業したい、地域を元気にしたいという意欲ある若者を増やし、産業・地域の担い手として育成していくことが必要です。そこで、行政だけでなく、教育機関、地域、企業、民間団体などが一丸となって、より効果的に「ひとづくり」を進めるため、2016年3月に策定した「ひとづくり協働構想」に基づき「ひとが育つまち益田」に向けて取り組んでいます。



「ひとづくり」は、長期的な展望に立って体系的・計画的に取り組む必要があります。このことから、市では「ひとが育つまち益田」の実現に向け、市長を本部長とする「ひとづくり推進本部」を設置し、「未来の担い手」「産業の担い手」「地域の担い手」の3つの部会でさまざまな取組を推進しています。

「ひとが育つまち益田」の実現は、行政だけでは達成できません。そこで、学校・地域・行政・NPO・企業等から成る共同事業体「益田市未来の担い手育成コンソーシアム」において、産官学民が一丸となって将来の益田の担い手を育成します。次号から、各部会の取組内容やその取組に対する職員の想い等を紹介していきます。

インターネットで「ますだのひと」と検索してください



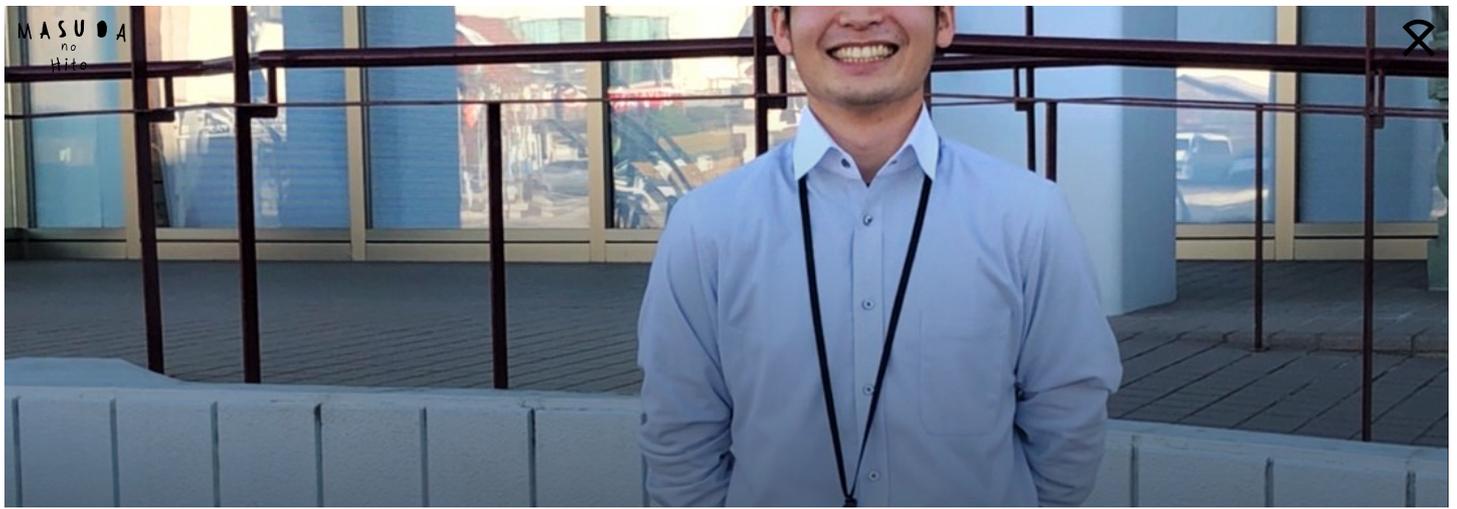
「MASUDA no Hito (ひとが育つまち益田)」ホームページでは、益田で暮らしている人や活動している人を取材し、その人たちの「想い」を発信しています。この「想い」を通して、益田の魅力ある「ひと・もの・こと」を知っていただければと思います。

その他にも「移住・定住の取組」「関係人口・地域づくりに関する取組」等について掲載しています。益田市が全国に先駆けて行なっている「ひとづくり」の取組をぜひご覧ください。

ホームページアドレス <https://masudanohito.jp>

MASUDA no Hito (ひとが育つまち益田)





NEW

2021年10月15日 (金)

益田のひとづくり

益田を応援する・支える「ひと」を増やしたい

目次



1. ひとづくりに関するどのような取組を担当をしていますか。
2. どのような想いをもって仕事をしていますか。
3. これからどうしていきたいですか。

ひとづくりに関するどのような取組を担当をしていますか。

私は、ひとが育つまち益田ウェブサイトの管理・運営、移住・定住の促進に加えて、関係人口・地域づくりの取組を担当しています。

ひとが育つまち益田ウェブサイトでは、益田で暮らしている人や益田で活動をしている人の想いを取材し、その想いを通した魅力的な益田の人の人柄や場所を掲載しています。

移住・定住の取組では、市内の高校3年生を対象として、市内に就職する人、市外に進学・就職する人たちの繋がりづくりを行っています。また、時代ニーズに合わせて、多様な働き方ができるように、複数業を持ち、益田で暮らすことができるような取組を行っています。

関係人口・地域づくりに関する取組では、益田の取組を応援する・支える人を創出するために、市内の空き家を関係人口の方と一緒に改修することや就農体験、地域自治組織の活動に参画するなどの取組を行っています。



どのような想いをもって仕事をしていますか。

定住担当者として、益田市に移住・定住してほしいなという気持ちはあります。ただ、それよりも大切にしていることは、「益田っていいな。」と思う人を日本中にたくさん増やしたいと思っています。

全国的に地方創生による移住者の奪い合いが行われ、いかに定住人口を増やすかという取組が、ここ最近まで行われていました。特に、益田市は全国に先駆けて、人口拡大課を設置し取組を行ってきました。それは、過疎発祥の地であるがゆえの課題先進地であったことは間違いありません。

しかし、人口減少が進む今、人を奪い合うのではなく、益田のひとの熱い想いを通して、益田のファンを増やしていきたい。移住・定住をゴールにするのではなく、益田で暮らしている「この人のために何かしたいな」、「この人と一緒に何かしてみたいな」と思うひとを増やしたいと思っています。

そのためには、益田市の魅力的かつ特徴的な取組の1つである、ひとづくりに関する取組をまずは知ってもらいたいですし、その取組に参加することで、自分の成長につながり、自分自身の「生き方」を問うきっかけになると思います。

だからこそ、一度は益田に訪れてもらいたいのが本音です。益田のひととの出会いや活動に触れたら、また益田に来たいと思える魅力があるからです。



これからどうしていきたいですか。

「益田の熱い想いをを持った方々」と、「益田に興味を持った方々」をつないでいきたいと思いません。

つないで終わりではなく、一緒に活動する行政職員でありたいですし、活動を通して一緒に楽しさや苦しさ、喜びを共有したいです。

成功体験を共有することが、信頼や継続性を生み、思い出になるのではなく、「また会いたい、一緒に活動したい」、何か困ったり行き詰ったりした際に、益田でやったことから道をひらくという経験や価値になるのだと感じています。

また、益田のひとづくりは、「行政内の縦割り」を脱却し、庁内が横断的に取り組みを進めています。ひとづくりの推進は、協働の推進であるため、自らが積極的に、他の部署と共により効果的な事業展開を図りたいと思います。

さらには、官民一体的に、ひとづくりを進めることが重要であると思います。行政内の縦割りだけではなく、事業所の皆様も同業種・異業種関係なく、多様な目的が個々にある中で、ひとが育つまち益田の実現に向けて、協働していきたいと考えています。

目指す姿は、ひとづくりを通して、益田市民の方々のやる気の向上や益田市を誇りに思う気持ち、いわゆる幸福度の向上に繋げていきたいです。ひとづくりに関わる全ての人が、それぞれの形で「よかった」と思って頂けるように、自分自身も成長していきたいと思っています。

最後に、私の人生の目的である、人の役に立つために、日々成長し続け、自分の持っている知識と経験をシェアすることで、関わった人の人生に影響を与えることのできる人になりたいと思います。

SHARE  



NEW

2021年10月15日 (金)

益田のひとづくり

地域づくり

益田20地区,吉田

映画が私を変えてくれた。～みんなでつくる新しい映画館の復活～

益田のひとづくりのエントリー

